

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00231

研究課題名(和文) 新興中間層の台頭とインド映画の新局面 - 新ジャンルの成立と映画産業の変貌を焦点に -

研究課題名(英文) Emergence of new middle class and new phases of Indian films-Focusing on the formation of new genres and the transformation of the film industry-

研究代表者

ANTONY Susairaj (Antony, Susairaj)

南山大学・人文学部・准教授

研究者番号：40814091

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、インド映画の新潮流を多角的に考察する試みとして、(A)新興中間層勃興の実態と意識内容についての量的研究、(B)新中間層映画の同定・定義づけとcontents-oriented studyに基づく内容分析、(C)audience-oriented approachによるレシピアント側の意識・嗜好の変化の解析、(D)インド映画産業のグローバル化のインパクトの分析を行った

研究成果の学術的意義や社会的意義

The result of the research has both scientific and social significance in the academic world and in the society. In our research there are both qualitative and quantitative method of analysis of Indian movies. to find out the motive of movie and content of movie in different parts.

研究成果の概要(英文)：The research on 'Emergence of new middle class and new phases of Indian films-Focusing on the formation of new genres and the transformation of the film industry-' is done between 2019-2022. Before we began the research, we had a plan to travel to India to do research on Indian Films. The research results were published in academic articles by the researches individually and collectively. The research results were presented in academic conferences in India and Japan. There were many research discussions and presentations on Indian films. In this research, we found a new methodology, namely, quantitative method, to do research on Indian Movies.

研究分野：Social Anthropology

キーワード：Indian Movie Indian Society Caste and Movie Entertainment and Movie Masala Movies Women in Indian Movie

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、新たに誕生してきたインド映画のニューウェイヴの性格と背景事情について、インド中間層の実相、コンテンツ分析、世界の映画産業のグローバル化現象から究める新機軸の映像文化学の試みである。本研究の目的の一つは、当該作品群のコンテンツを精査して解釈を施し、且つ作品群の消費動向について多角的な分析を加えることで、そこに表現された新興中産階級の意識と実像に迫ることである。

2. 研究の目的

インドでは経済自由化に方向転換した1990年代以降、新中間層の台頭など社会構造に大きな変化が顕在化して(Varma, P.K. The Great Indian Middle Class 1998)、従来とは傾向を異にする新趣向の作品群(新中間層映画)が登場している。このジャンルの出現には、こうした社会の動きに加え、一連の技術革新(広汎なデジタル化と諸規格の統一など)を伴う世界映画産業のグローバル化も関係している。21世紀に成立を見たこの新中間層映画は、インド映画の既成の概念とフォーマットを打ち砕き、今後のインド映画の方向性をも指し示しており、インド映画史および映画研究において、極めて重要な意義を有するものと言える。本研究は、新中間層映画に関わる諸現象の考察を通して、インド社会を理解する新しい方法論を提示し、その実相に迫るための有力な選択肢を用意することを射程に収めている。

3. 研究の方法

本研究では、インド映画の新潮流を多角的に考察する試みとして、(A)新興中間層勃興の実態と意識内容についての量的研究、(B)新中間層映画の同定・定義づけとcontents-oriented studyに基づく内容分析、(C)audience-oriented approachによるレシピアント側の意識・嗜好の変化の解析、(D)インド映画産業のグローバル化のインパクトの分析を行う。本研究は、構成員に以下のような役割分担を課し、当該課題の調査・研究に当たさせた。新中間層映画の台頭と社会背景についての分析を行った。contents-oriented studyでの内容分析と作品論的考察を行なった。インド映画の史的展開と新中間層映画の意義・位置づけについて研究をした。audience-oriented approachを援用したレシピエント側の意識・嗜好調査、作品内容の構造分析・テーマ分析した。グローバル化に伴う映画市場の動向と新中間層映画の分析を行なった。コンテンツ分析は、新中間層映画と従来型インド娯楽映画との異同を、スクリプト、キャスティング、シネマトグラフィー、ディレクションなど諸方面から割り出し、旧来と異なる映像処理技法などを画面分析から抽出して、従来作との相違・対照を際立たせ、作品の特質を浮かび上がらせるものであった。現地調査は、日本のインド系コミュニティを訪ね、ディアスポラにおけるインド映画の享受の様態を探るとともに、消費動向につき質的・量的調査を行う。映画業界の動向については、現地でフィルムメーカー(プロデューサー、配給会社、監督・脚本家、シネマトグラファー)や、映画専門学校の教員に面接調査を行う。班員の役割に応じて、ムンバイ、ハイダラーバード、チェンナイの撮影所で制作現場を調査し、ムンバイ、チェンナイの大学の学生を対象に、受容動向に関し質問票による量的調査を行った。研究会は、特別講師を迎え、映画業界に関する最新の知見を得、研究成果の報告と研究計画の見直しや改良点を話し合い、研究計画後半では成果公開の方法や手順に

についても協議した。

4 . 研究成果

映画は、単に芸術作品であるにとどまらず文化や社会のありかたを如実に反映しており、文化研究における有用性・潜在的可能性がきわめて高い。映画は、研究のされかた次第で地域の文化的営みの研究にとって、またとない材料を提供するのである。インドは「映画大国」である。毎年検閲を通過する映画が2000本前後あり、検閲されない映画が多いことも考慮すれば、映画製作本数は世界一を誇る。研究材料の宝庫と言ってよい。インド映画は、100年を超える歴史を経るなかで、時代状況に応じてコンテンツを変容させ新ジャンルの映画を生みながら現在に至っている。

文化研究における潜在的可能性にもかかわらず、従来の映画研究は、主観性に依存する質的研究が主体であり、データの裏づけをもとに作品やトレンドを分析する手法はとられてこなかった。しかし、膨大な本数を有するインド映画の諸作品に統計的手法を加味した新たな角度・方法論からアプローチすることで、質的研究だけからでは把握できなかった大きな流れや作品の特質を効果的かつ説得力のあるかたちで提示することが可能となる。インド映画が均質性の高いフォーマットに則って制作されていることも、量的な分析への適合性を示している。客観的な指標を交えて読み解くことで、映画とそれを取り巻く文化現象が鮮やかに、かつ立体的に浮かび上がってくるのである。

本共同研究では、インド映画の分析に「デジタル・ヒューマニティーズ」と呼ばれる計量的文化研究の考え方と方法とを導入し、映像文化へのアプローチに新しい地平を切り拓くことができた。作品コンテンツから興行成績にわたる各種データの収集とデータベースの構築を進め、図表の作成等の可視化作業をおこない、それらをもとに量的および質的分析を試みた。こうしたプロセスによって、インド映画とインド文化の動態とを、多角的に捉えようになる結果になった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山下博司・岡光信子	4. 巻 45
2. 論文標題 映画の好みも多様なインド	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊みんぱく	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Reiko Iida	4. 巻 4
2. 論文標題 Who are the Kolhati?: Development of Flexible Thinking on the Concept of Jati among Tamangir in Maharashtra, India in The Caste Formation in Maharashtra	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 MINDAS Working Papers	6. 最初と最後の頁 176-211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Antony Susairaj	4. 巻 23
2. 論文標題 Ecological Well-being from the Viewpoint of the Hindu Religion	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ACADEMIA	6. 最初と最後の頁 73-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Antony Susairaj	4. 巻 95
2. 論文標題 Dalits and Tribals of India: The Most Vulnerable Groups during Covid-19	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 321-322
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Antony Susairaj	4. 巻 22
2. 論文標題 インドのマルチ・カースト社会における社会的調和促進のためのサマトゥアプラム(平等村)イデオロギーの評価 インド・タミール州ティルパットゥル地区 ベンガラプラムペリヤール サマトゥアプラムの事例から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アカデミア	6. 最初と最後の頁 183 - 199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Antony Susairaj	4. 巻 22
2. 論文標題 The Impact of Migration on the Socio-economic Development of Migrants: A Case Study on the Migrants of Oraon Tribe in Pune, India	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ACADEMIA	6. 最初と最後の頁 201-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Antony Susairaj	4. 巻 39
2. 論文標題 Discrimination against Dalits and the Role of the Samathuvapuram towards the Promotion of Equality within the Multi-caste Society of India	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 153-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Antony Susairaj	4. 巻 20
2. 論文標題 The Paradigm shifts in the Portrayal of Caste in Tamil Cinema and its impact on the Tamil Society	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ACADEMIA, Journal of the Nanzan Academic Society, Humanities and Natural Sciences	6. 最初と最後の頁 121-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Antony Susairaj	4. 巻 21
2. 論文標題 Mirroring the Humiliation of Dalits in the Indian Society: An Analytical Study on the Tamil Movie Pariyerum Perumal	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 , ACADEMIA, Journal of the Nanzan Academic Society, Humanities and Natural Sciences	6. 最初と最後の頁 227~240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アントニー・スサイラジ	4. 巻 21
2. 論文標題 カースト制度と職業 不可触民タップ奏者の事例から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『アカデミア』 人文・自然科学編第 南山大学	6. 最初と最後の頁 241 ~ 254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡光信子	4. 巻 112
2. 論文標題 コロナ禍のインド	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 たいまつ通信	6. 最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田玲子	4. 巻 637
2. 論文標題 デジタル化によるインドのコロナ対応	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 64-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田玲子	4. 巻 641
2. 論文標題 印中の緊張関係と中国製品の不買運動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 66-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Antony Susairaj	4. 巻 93巻別冊
2. 論文標題 映画『ボンベイ』における宗教的対立の分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 129-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Antony Susairaj	4. 巻 20
2. 論文標題 The Paradigm shifts in the Portrayal of Caste in Tamil Cinema and its impact on the Tamil Society	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Academia	6. 最初と最後の頁 121-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下博司	4. 巻 403
2. 論文標題 宗教批判と作品批判 - 映画『PK』受容の二極分化と価値の相克	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 130-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡光信子	4. 巻 第93巻
2. 論文標題 「日常の中の宗教 新中間層映画『ランチボックス』の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 131-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田玲子	4. 巻 36
2. 論文標題 欲望を演じる人々の現在 インド・マハーラーシュトラ州の大衆芸能タマーシャー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民族藝術学会誌	6. 最初と最後の頁 172-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Antony Susairaj
2. 発表標題 インドのマルチ・カースト社会における社会的調和促進のためのサマトゥアプラム（平等村）イデオロギーの評価
3. 学会等名 日本南アジア学会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Antony Susairaj
2. 発表標題 Dailts and Tribals: The Most Vulnerable Groups during COVID-19
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Antony Susairaj
2. 発表標題 The Hazards of Continuing Hereditary Occupations (Kula Thozhil): A Study on the Identity and Occupation of an Arunthathiyar Community in Tamil Nadu, India.
3. 学会等名 日本南アジア学会 オンライン開催 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Antony Susairaj
2. 発表標題 An Evaluation on Samathupuram (Model village of Equality) in Tamil Nadu in Promotion of Social Harmony
3. 学会等名 日本宗教学会 第79回学術大会 オンライン (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Antony Susairaj
2. 発表標題 Inevitability for Inter-religious Dialogue: A comparative study between Japan and India, Witness to the Word Forum, Online Conference
3. 学会等名 Witness to the Word Forum, Online Conference , Holy Name University, Philippines, (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯田玲子
2. 発表標題 模倣によって生成されつづけるインド大衆芸能の現在
3. 学会等名 京都人類学研究会 京都大学 (オンライン)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 飯田玲子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 35
3. 書名 「12章 これからを生きるために「当時の決断」を振り返る」、内藤直樹・北野真帆編『コロナ禍を生きる大学生——留学中のパンデミック経験を語り合う』	

1. 著者名 石坂晋哉・宇根義己・舟橋健太（編）、飯田玲子（「インド映画 地域語映画の復権」部分執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 296
3. 書名 ようこそ南アジア世界へ	

1. 著者名 飯田玲子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版.	5. 総ページ数 258
3. 書名 インドにおける大衆芸能と都市文化 タマーシャの踊り子による模倣と欲望の上演	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯田 玲子 (Reiko Iida) (10757587)	金沢大学国際基幹教育院・アジア・アフリカ地域研究研究科・特定助教 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	山下 博司 (Yamashita Hiroshi) (20230427)	東北大学・国際文化研究科・名誉教授 (11301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関